

2014年産松の実市況



松の実の産地である東北地区の遼寧省では他の地域より早く、8月末から9月に収穫がスタートしました。今期の収穫予想は豊作であったため、相場は弱含みとなる事が予想されていましたが、2012年、2013年と2年連続の大減産による在庫逼迫感から、同省で収穫されたもののほとんどは中国国内市場(殻付市場)へ出荷される形となりました。このため、剥実のオープニング価格は期待されていた程は値下がりせず、大幅に価格が下落すると見込んでいた業者は様子見となりましたが、その他の主要産地である吉林省、黒竜江省が干ばつの影響で当初収穫量予想の約20%減の60,000メトリックトン程度に留まるとわかると、渋々買い付けを再開し、これが価格を下支えする状況となりました。

今期の松の実の品質は良好ですが、サイズは小粒傾向である事、引き続き中国国内のスナックマーケットが活況である事から、日本向けの大粒規格は割高のオファーとなっています。また、現在松の木になっている松ぼっくりを確認すると、来年2015年産は大幅な減産になる事が予想されており、品薄な大粒規格のプレミア化が進んだり、2016年の使用分を抑えようという動きが始まれば、再度相場は値上がりに転じる可能性もあります。

松の実は例年、中国の旧正月(来年は2月19日)前の需要次第で価格が大きく変動する事から、引き続き情報を入手次第ご連絡させていただきます。

